IAUD Newsletter

2011.07 No.4



IAUD Newsletter Vol.4 第04号(2011年7月号)目次

1.	特集:IAUD アウォード 2010 優秀賞の紹介	南アルプス市健康福祉センター・・・	1
2.	国内外 UD 動向/IAUD 8月の予定・・・	• • • • • • • • • • • • • • • • • •	7

~特集: IAUD アウォード 2010 優秀賞の紹介第 2 弾

「五感で感じる UD を求めて」

㈱日建設計の南アルプス市健康福祉センターでの試み



2010 年 10 月に開催された「IAUD アウォード 2010」で、優秀賞を受賞した南アルプス市健康 福祉センター(長野県南アルプス市)は、光や音、香りや肌触りなど私達の五感で感じることができる環境と共生する新しい形の UD を実現した ㈱日建設計の取り組みです。

その成果は、アウォード選考委員長ロジャー・コールマン氏からも「大規模な専門企業が、UDの概念と実践をいかに広めていくかを提示したことは、今後も大きい影響を与えていく。照明や音響といったデザインは、全体的観点から取り組んでおり、まさに五感で感じられるものとなっている。このような前向きなプロジェクトは、UDの理論と実践を企業やコミュニティに普及するきっかけになるだろう」と絶賛しています。その詳細を、同社設計部長/フロンティア日建設

計取締役の岩崎 克也氏にご紹介いただきます。

行政・保健・福祉の機能を一つにまとめた複合施設

敷地は2003年に旧中巨摩郡の6つの町村が合併して出来た南アルプス市。老朽化した旧町役場の周辺には、さくらんぼやぶどう、桃などの果樹園が広がる自然豊かな地域である。<行政・保健・福祉>の機能を一つにまとめた複合施設として、今後の市民の健康づくりの新しい拠点として期待された。

この自然豊かな場所を活かし、旧役場の支所機能と、健康診断などを行う健康つくりホール、児童館、調理実習室、会議室からなる機能をどのように複合して行くか。そしてこどもから高齢者まで、幅広い世代の利用する人にとって快適で安全・わかりやすい

計画とすることが設計のテーマとなった。具体的には、光や音、香りや肌触りなど私たちのく五感>で感じることができる環境と共生する新しい形の UD を展開した。



すべての五感がデザイン要素

平面は、アクセスしやすさを考え「わかりやすい骨格」を目指した。4つのトップライトを持つコミュニティーホールを中心に4つの矩形をずらしながら組み合わせ、行政、

保健・福祉の機能を立体的に配置した。このズレを利用して、入り口や開口部を設け、観る方向によって異なる風景を切り取る外界との接点を持つ計画とした。

断面は、上下階の吹き抜けによる視覚的な広がりと、ガラスを用いてさまざまなアクティビティーを積極的に見せることで、高齢者からこどもまでが利用する多様な世代間でのコミュニケーションの誘発と、建物内のどこにいても見守られる安心感を意図とした。



「4つのトップライト」により天井の高さに変化を付け、反響音と光の違いを意図的に創ることにより自分の居場所がわかる仕掛けとした。2階の廊下の4隅は音の反響するフローリング仕上げとし、杖や靴音による音の変化がわかる素材とした。目の見えない人を自ら発した音の変化により、耳の不自由な人には光の環境の変化により、場所の違いわかるという「能動的なサイン計画」を狙った。

そのほか、リードライン、フラットアクセスといったアクセスビリティーのデザインに注意を払い、誰もが目的の場所にアクセスしやすい計画とした。

ここでは、光や風、花々の香りや音、そして触覚まで「すべての五感がデザイン要素」と捉え、アフォーダンスの考え方をより建築側に引き寄せたデザインを展開した。JJ. ギブソンの言う「自ら環境に繰り返し働きかけることによって得られる反応から、



必要な情報だけを抽出する認識方法」を建築化する試みである。環境の中にはまだまだ 人間が持つ能力で知覚し得る「資質」が埋め込まれているということをデザインの鍵と した。



UD の取り組みから生まれた数々のアイデア

南アルプス市健康福祉センターでは、設計の過程の中で、日建設計ユニバーサルデザイン研究会(以下、UD研)で意見交換を重ねながら、設計のブラッシュアップを図った。 具体的には以下の2つのツールを使ったUD研関係者による複数のレビューや北欧をはじめとする海外先進事例の視察を経て、数々のアイデアが生まれ、検討を重ね、創り込みを深めることで、実現をしたプロジェクトである。

UD チェックシート



てこのシステムをより強化し始めているところである。

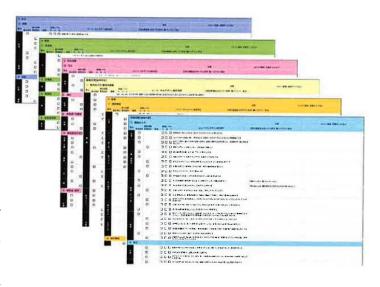
フロンティア日建設計:現在、CAD 支援を主体とした特例子会社。

車椅子使用者や下肢不自由・上体不自由などの障害を持つ者などの 17 名により構成され設計支援など行うかたわら UD について社内アドバイスを行っている。

SPP (Space Performance Program) 検証による UD ライブラリー

竣工した作品は、UD ライブラリーに よって情報共有を奨めている。このラ イブラリーは、設計上配慮した項目、 ディテールの事例を紹介するだけでな く SPP(Space Performance Program) 検証を独自に行い、データベース化し 整理し、改善の可能性なども追記する ことで次のデザインに活かすブラッ シュアップを図っている。

SPP(SpacePerformanceProgram)検証とは、ロン・メイスの提唱した UD7 原則を、設計事務所として都市・建築空間を対象に再構築した独自の手法である。これは、性別をはじめ、年齢、障



害、国籍ごとといった利用対象者別に、公平性、自由度、わかりやすさ、安全性、快適性、空間性の 6 つの視点に加えてデザイン、経済性、環境のすべての項目で UD の達成度を計るものである。

9つの UD アイデア

これらプロセスを経て生まれた UD9 つのアイデアを以下に紹介する。

1. 四季の変化が楽しめるランドスケープ

敷地全体を色や香りなど四季の変化が楽しめる4つの特徴のある庭で構成した。建物2つの入口は外壁タイルの色を変えることでランドスケープとともに2つの入り口の特徴を表現した。

2. 中心となるコミュニティーホール

自然光を十分に取り込んだエレベータ、階段、廊下などの移動空間を建物の中心に配置した。ホールに面したそれぞれの開口部からは、周囲の風景を切り取り、オープンエンドとすることで外が見えるという安心感と視認性を高める効果を狙った。

3. 視認性をデザインした内装・サイン計画

建物の中心に配置したオリエンテーションホールに面して 4 方向に大きなサインを配置した。また、内装は、床、壁の仕上げは入り口、開口部など、次のシークエンスに人を誘導することを意図し、材料の切り替えや色の配色をし、ウエイファイングの機能性を併せ持たせた。

4. フラットアクセス

出入りが必要なすべての開口部は足元の段差を<0>とし、よりつきやすい入り口とした。開口部足元は使いやすさと美しさ、そして雨仕舞いの機能性を備えたディテールとした。

また、内部空間でも入り口周りをはじめ、すべてのアスセスビリィティーを高めるため に細心の注意を払ったデザインとした。



5. スロープ

敷地の高低差を利用した築山と一体となったスロープを使い建物 2 階に移動可能とした。 2 階に児童館など子どもが利用するこの建物では、1/20 の緩やかな勾配とすることで子どもや車椅子、乳幼児のベビーカーでの容易な移動を考慮した。

6. リードライン

高さ 90 センチの部分のザラザラとした壁素材を変えたラインをつくり、その高さを追えばスイッチ、引き手、押し棒、コンセントなど必要な情報にアクセスできる。床面のリードラインの凹凸は車椅子の歩行の障害になるが、ここでは壁面でのリードラインによる情報展開を図った。

7. リードエコー

断面は、廊下のコーナー部分の天井を高くとり、かつ床の仕上げ材料をフローリングに変え異種の床材を併置することで、自ら発した反響音の変化により視覚に障害ある人も 耳からの情報で自分の居場所が認識できる工夫をした。

8. ウオークスルーエレベータ

車椅子を回転することなく、乗降できるエレベータを開発した。エレベータのかごをガラス張りにし階段に近い位置に配置することで誰にでもわかる視認性を高いわかりやすいものとした。地震力 1.25 倍でも耐えられるシースルー型ウオークスルーEV は日本初である。



IAUD Newsletter Vol.4 No.04 2011.07

9. ライニング高さを統一した自然光の入るトイレ

トップライトから自然光を導いた明るい多目的トイレとした。高さ70センチに統一したライニングを手摺がわりに水平移動と動作の移行を可能とし、自然光を採りこむことで、停電時でも落ち着いて行動できる安心・安全のデザインである。 (完)

国内外 UD 動向

「かわさき産業デザインコンペ 2011」作品募集

川崎市内企業の協賛により応募作品の実現化・商品化を目指して実施する「かわさき産業デザインコンペ 2011」が、「生活を変える、生産が変わる」をテーマとした9つの課題について、ユニバーサル性やエコロジー性にも配慮したデザイン提案を募っています。また、デザインを通じてものづくりの楽しさを学ぶことを目的として高校生を対象とした部門も併催します。高校生の皆さんから斬新なアイデアやデザインを募ります。

応募受付期間: 2011 年 10 月 11 日 (火) ~ 10 月 18 日 (火) 当日消印有効課題、応募方法等の詳細については、ホームページをご覧ください。

http://www.kawasaki-net.ne.jp/design/

問合せ:川崎市経済労働局新産業創出担当 松本・粟井

TEL 044-200-2334 FAX 044-200-3920

IAUD 8月の予定

3日 (水) 10 時~ 食の UDPJ 定例会 (IAUD サロン)

4日(木) 16 時~ メディアの UDPJ「co-lab 二子玉川 オープニングイベント」参加 (二子玉川ライズ・オフィス 8F「カタリスト BA」)

5日(金) 16時30分~ 第3回検定委員会会合 (IAUD サロン)

8日(月) 15 時~ 第 1 回国際会議実行委員会会合 (IAUD サロン)

25日 (木) 15時~ 第4回協同事業検討委員会会合 (IAUD サロン)

31 日 (水) 15 時~ 第 3 回情報交流センター会合 (IAUD サロン)

メンバー募集中の研究部会・委員会はこちらにリンクしてください。 http://www.iaud.net/news-f/archives/1106/21-114818.php

夏季休業のお知らせ

事務局:8月11日(木)~8月15日(月) IAUD サロン:8月10日(水)~17日(水)

次号は8月10日(水)発行予定

特集(予定): 標準化研究 WG 企画講演会「ポスト 3.11 の求められるデザイン」報告 無断転載禁止

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847 e-mail: salon@iaud.net